

## 果樹カメムシ類

### ○被害と発生生態

果樹の果実を吸汁して落果や奇形果等の被害を与えるカメムシ類は、果樹カメムシ類と呼ばれており、主な種類は、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの3種である。これらは多食性で多くの植物の果実や新梢などを吸汁するが、繁殖可能な植物は限られており、山林のスギやヒノキの球果（丸い実）が主な増殖源となっている。このため、発生量は年次変動が大きく、球果量が多い年（スギ、ヒノキの花粉量が多い年）は越冬量が多くなり、翌年の6月～8月に果樹被害が大きくなることが多い。

果樹カメムシ類は、果樹ではほとんど繁殖できないため、スギ、ヒノキ球果などの繁殖可能な餌が不足した場合に果樹園に飛来すると考えられている。

### ○防除方法

#### (ア) 耕種・物理的防除

- ・常発園では、ネット（網目4mm以下）で園全体を覆い侵入を防ぐ。
- ・黄色蛍光灯により、チャバネアオカメムシの被害を軽減できる。

#### (イ) 薬剤防除

- ・果樹園への飛来量は年次変動が大きいため、多発が予想される年は特に被害防止対策を講じるとともに、病害虫防除所の発生予察情報に注意する。
- ・園内にライトトラップを設置し、飛来を確認したら薬剤散布を行う。散布後7～10日を目安に再度トラップを確認し飛来を認めた場合は、追加の散布を行う。
- ・有袋栽培であっても、果実が肥大し、袋に接した時期に集中的に加害されるので、飛来を認めた場合は防除を行う。



チャバネアオカメムシ



ツヤアオカメムシ



クサギカメムシ



予察用フェロモントラップに誘殺されたチャバネアオカメムシ



ナシの被害



りんごの被害



園地内に設置したライトトラップ